



| | |
|--------------|---|
| Title | TPKI実施をめぐる問題 : CEFR・TPKIの日本における「文脈化」 |
| Author(s) | 菱川, 邦俊 |
| Citation | 国際語としてのロシア語 : 国際統一基準による言語能力レベル評価システム構築の現状と将来的課題. 2019, p. 51-60 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/85110 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

TPKI 実施をめぐる問題——CEFR・TPKI の日本における「文脈化」——

菱川 邦俊

(近畿大学インターナショナルセンター)

1. はじめに

欧州評議会が 2001 年に公表した「外国語の学習，教授，評価のためのヨーロッパ共通参照枠」(以下，CEFR と表記)の普及，またロシア本国以外での「外国人のためのロシア語検定試験」(以下，TPKI と表記)の普及という点で，現状においていくつかの問題点が存在している。本発表では，国際的コミュニケーション手段としてのロシア語という観点の必要性，また学習言語地域で求められる母語と学習言語間の「仲介活動」能力測定導入の必要性，という 2 つの点から提起を行った。本稿では，その発言要旨を報告する。

ロシア語は中国語や朝鮮・韓国語とともに，日本の「隣国」の言語であるにもかかわらず，その学習に対する必要性は国内の一部の地域を除いて他の近隣諸国の言語には及ばない。ロシア語はロシアのみならず，中央アジアをはじめとする旧ソ連諸国との交流においても欠かせない言語である。市場をみれば，ロシア一国に留まらず，カザフスタンやウズベキスタンなど中央アジア諸国，旧ソ連のベラルーシなど NIS 諸国でもロシア語の需要がある。日本においても，CIS 諸国から来日される方の中には英語は苦手だが，ロシア語なら理解できるというケースも散見される。また，60 ヶ国語近い言語の研修に対応している語学学校が企業や官公庁から受託した講座時間数の 2010 年ランキングでは，中国語，英語，ポルトガル語についてロシア語が 4 位を占めたこともある。こうして企業進出等でロシア語の需要が高まりを見せていたところ，2014 年以降は，日本を含む欧米諸国による対露経済制裁の発動によって，両国間の大型ビジネスの進展が困難な状況に陥ってしまい，大型受注が減少傾向にあるのに比例して進出企業でのロシア語ニーズが減少傾向にあると伺っている。とはいえ，2016 年にロシアの生活環境大国，産業・経済の革新のための 8 項目協力プランを安倍首相が提案したことで，この 8 項目協力プランに基づいて，医療，都市づくり，中小企業交流，人的交流などの分野で多くのプロジェクトが進んでいることもあり，アウトバンドを意識したロシア語学習の需要が一部で続いているとの話も伝わっている。さらに，日本は訪日観光，医療ツーリズム等インバウンド事業も積極的に展開しており，日本国内での需要がますます重要性を増してくるだろう。

2. グローバル化と語学習得

グローバル化が進むにつれ，個人が国境を越えて移動する機会は増大している。また，イ

インターネットやメディアの発達は、二次元空間においても国境の垣根を容易に越えて、おびただしい情報のやりとりがさまざまな言語によって行われ、複数の言語によるコミュニケーションの必要性がますます高まっている。

さらに、国際社会はグローバル化の波とともに、それが自分の住む地域社会においても「英語+ α 言語」の習得が求められる多様性ある社会へと向かっている。外国語教育の現場にあつては、社会的ニーズに対応するため、かつての文法訳読を中心とする授業から、実用的な異言語の習得が求められるようになってきている。とくに言語能力の習得にとどまらない、言語運用能力の開発により重点を置く教材の開発も待たれる。

3. ロシア語教育の現場でも多様な取り組みが行なわれるようになってきた

大学によっては、資格の習得を重視し、各種ロシア語検定受験に対応する授業を展開するところも散見される。

従来の「読む・書く」といった言語能力よりも、「話す・聞く」言語運用能力を重視するオーラル・メソッドによる授業を展開する大学もある。

研究者の間で「ロシア語教育研究会」等によるロシア語教育の在り方をめぐる議論が活発化をみせている。

4. ロシア語の社会的ニーズ・動機

この項では、発表者の経験をもとに以下の事例を紹介した。

- ・第一外国語としてのロシア語： 各大学・学部内での統廃合の動き（縮小傾向）
- ・第二外国語としてのロシア語： 例）東京理科大学，筑波大学，近畿大学
- ・企業研修におけるロシア語： 日露関係，国際関係に左右される

ロシア語を教授するにあたり、課題となるのが（とくに大学の語学教育において）受講者に多様な受講動機がある中で「到達目標」をいかに設定するのか、学習目標重層化，多様化している中で「到達目標」をいかに設定するかである。

(1) 受講者の受講動機

ロシアに興味があるから

友人がいるから

BRICs のひとつだから

隣国であるから

人に勧められて

ロシアを旅行してみたいから，中央アジアに行ってみたいから

（一昔前だと）艦これ，（少し前だと）ガルパン などゲームやアニメで用いられるロシア語を理解したいから

ただなんとなく、履修者が少なそうだったから

など

※受講者に多様な受講動機がある中で、「到達目標」を如何に設定するか？は大きな課題である。

(2) 大学教育におけるロシア語の位置づけ

はたして第二外国語にロシア語を加える大学は増えているのだろうか、それとも減っているのだろうか。半期だけのコースや週1回の授業という学習時間や頻度が極度に少ないカリキュラム構成の場合もある。異文化受容や異文化理解の一助として異言語学習を捉え、ロシア語そのものの習得レベルにはこだわらない場合もある。その一方で、第二外国語としての到達レベルを明確にしては？という動きもある。その一環として、第二外国語（副専攻語）の教育現場では近年、特に欧米系第二言語において、CEFR を一つの到達レベルとして活用する動きがある。かつて発表者が出講していた大学の第二外国語担当者会議の場でも一部の言語担当者から同CEFR を到達レベルとして利用する声が上がっていた。一例として、イタリア語科目が具体的にA1 レベルを達成目標として掲げているケースもあった。

※ 学習目標が重層化、多様化している中で、「到達目標」を如何に設定するか？

5. 日本で受験可能な主要「ロシア語能力検定試験」

- ・「外国人のためのロシア語検定試験（ТРКИ）」
- ・「ロシア語能力検定試験」（主催：ロシア語能力検定委員会・事務局：東京ロシア語学院）
- ・「全国通訳案内士試験（ロシア語）」（日本政府観光局）

など

6. ТРКИ

ロシア連邦教育科学省が認定する外国人のためのロシア語検定試験であり、試験の本来の目的はロシアの大学・大学院に入学後学業を修めるに足るロシア語力をはかるための検定である。ロシアの大学への入学、編入および大学院への入学を希望する外国人（非母語話者）は1998年からこの試験の受験が義務付けられている。

大阪大学のように、ロシア語能力判定のための判断材料として活用する日本の大学もある。

7. 日本におけるТРКИ実施をめぐる問題

- + 学習者の到達度、習熟度の把握に役立つ
- + 学習者が客観的な能力レベルを知ることによって、次のステップへの具体的な学習目標・計画を立てることが可能
- + 学習者の学習動機の維持・向上に役立つ
- + 大学生の場合、就職活動の際に履歴書に記載することができる（場合によっては就職

に有利)

- + ロシア語学習者に受検希望のニーズがある
- 単位認定等，課程に組み込んだ形で ТРКИ 正規試験を実施している大学はほとんどない …極東連邦大函館校も取りやめ
- (ТРКИ の定める基準に準拠した) 日本語話者向けの学習教材がほとんどない
- ТРКИ の認知度の低さ
- 日本の学校におけるロシア語教育と ТРКИ のレベルとの乖離 (学習内容が必ずしも ТРКИ に準拠していない. そもそも日本の学校はロシアの高等教育機関に進学するための予備校ではない. 授業開設の目的が異なる)
- 毎回の試験実施時にロシア本国から試験官を招聘するとなると相当な費用負担が生じる (受検料への跳ね返り)

8. 「母語話者レベル」の言語運用能力習得は必要か？

ロシア語を必要としているのは，ロシア国内だけではない。

- ・日本における多言語・多文化共生社会.
- ・学習言語地域 (この場合，日本) でさまざまな活動を行うことを想定する言語学習と，その能力尺度の設定が今後必要になってくる.

- ・経済関係の緊密化と連動し，北海道や日本海沿岸地域をはじめとしてビジネス・労働・観光目的で来日するロシア連邦・NIS 諸国の人々の数は増加の一途をたどっている.
…最近の日本：インバウンド事業の増加
訪日ロシア人：94,800 人 (2018 年) ← 60,502 人 (2013 年) ← 66,270 人 (2008 年)
在留ロシア人：8,862 人 (総数：2,637,251 人 2018 年 6 月) ← 7,668 人 (2,086,603 人 2014 年 6 月)
(2017 年ロシア人延べ宿泊者数・大阪府：13,320 人：大阪府全体の外国人延べ宿泊者数は 10,783,660 人)

- ・共生のために何が必要とされているか (以下，林田理恵 (2010) より引用)
在留者の増加，ロシア語を必要としているのは，必ずしもロシア人とは限らない.
…各地域における「外国人」登録者数の急激な増加という事態を受けて，それぞれの地方自治体では住居，就労，医療，教育等，生活全般に亘っての対応が急務となっているが，すでに大都市圏をはじめとして，このような「足もとの国際化」に対応する地域づくりの努力は始まっている.
在住「外国人」が地域住民の一員として安心して生活するためには，理解可能な言語で生活関連情報が提供されることがまず必要となってくる. 災害等に関する瞬時の情報提供は各自治体とも最優先課題として取り組んでいるが，それ以外にも行政から

の各種案内について、多言語によるホームページ開設や生活ガイドブック作成などを行っている地域も多い。また市街地図や施設案内表示なども最近では、その地域の特性を生かした多言語での表示を多く見かけるようになっている。

このような情報提供以外に、在住「外国人」に対する実質的な生活支援の分野では、行政機関の「外国人」登録、健康保険、税金、教育、住宅等に関する多言語による窓口業務や、病院・消防等医療救急体制における多言語対応なども一部自治体では始まっている。

在住「外国人」が地域の暮らしの中で直面する困難は単にことばの障壁だけではない。社会システムや生活習慣・文化の違いは、言うまでもなく生活のあらゆる局面で様々なトラブル、軋轢を生じさせる。こういった問題を抱えた人たちのために、法律、税金、医療、行政手続き、労働問題、人権問題、子育て・教育など広範囲に亘る内容の多言語による相談サービスの充実が自治体での課題となっている。さらに先進的な一部地域では、病院など必要性の高い場所へ通訳が同行したり、学校等の教育現場に通訳を派遣したりする通訳同行・派遣事業などの試みも開始されている。

子どもたちの学校教育をめぐるケアも重要な問題として浮上してきている。文科省や各自治体では基本情報提供手段として多言語による就学ガイドブックの作成・配布をはじめ、就学相談窓口の設置、日本語指導のための教員配置、児童生徒の母語が話せる指導協力者やコーディネーターの拠点配置 —— 2009年現在 17都道府県に47のセンター校が設定されている —— などの施策が行われている。また、児童・生徒のアイデンティティを守り、かつ学力を保障する上で、論理能力等を養うために不可欠とされる母語継承の取り組み、さらには母語での教科学習会や民族・国籍を超えての交流会など、地方自治体独自の活動も注目される。

9. 今後の課題

- ・外国語教育・日本語教育の現場で CEFR を応用する動き
- ・ロシア語教育では …ТРКИ を応用する大阪大学の取り組みのほか、「ロシア語能力検定試験」(ロシア語能力検定委員会・東京ロシア語学院)の資格取得を目指した授業を展開するところも中にはある
- ・CEFR ないし ТРКИ を一定の基準としながら、それに準拠するロシア語教材の開発が待たれる
 - …「近年日本で出版・市販され、主に大学の第二外国語用教材として用いられているロシア語教科書では、使用語彙数、文法項目が著しく減少しており、能力検定試験、ТРКИ の最低レベルにも及ばない。これは日本人のロシア語学習に対する姿勢、ロシア語教育の現状を物語るものであろう」(中澤英彦 (2012) より)
- ・ロシア語教育においても CEFR ないし ТРКИ のロシア語教育への応用を試みる研究と議

論をいっそう進める必要性

ロシアでのロシア語運用を想定する現在の試験では早晚、行き詰まる。ロシア語を国際語、非ロシア人同士がコミュニケーションを取るための国際語・共通語・仲介言語としてのロシア語。地域的亜種も認めながら、それぞれが使われる地域に根ざした、実践的なロシア語テストの開発、能力測定導入が必要だろう。

参考文献

佐藤慎司・熊谷由里編（2010）：「アセスメントと日本語教育 新しい評価の理論と実践」くろしお出版

吉島茂・大橋理枝（他）訳・編（2004）：「外国語教育Ⅱ 外国語の学習，教授，評価のためのヨーロッパ共通参照枠」朝日出版社

ロシア語教育研究会編著（2008）：「授業づくりハンドブック ロシア語」大阪大学出版会
Министерство образования и науки Российской Федерации/ Российская государственная система тестирования граждан зарубежных стран по русскому языку. 2000. Лексический минимум по русскому языку как иностранному, I сертификационный уровень, общее владение, Москва-Санкт-Петербург, ЦМО МГУ-Златоуст.

林田理恵（2010）：『地域の国際化とロシア語教育』

<http://rokyoken.web.fc2.com/shiryu/kaishi2010.pdf>

林田理恵（2017）：『どこへ向かうロシア語教育？——国際語としてのロシア語教育の提案——』

<http://rokyoken.web.fc2.com/shiryu/kaishi2017-4.pdf.pdf>

北岡千夏（2003）：『日本の大学におけるロシア語能力検定試験実施の試み』

<http://kuir.jm.kansai-u.ac.jp/dspace/handle/10112/1234>

国際交流基金：ヨーロッパにおける日本語教育と CEFR

<http://www.jpf.go.jp/j/publish/japanese/euro/pdf/ceforfl.pdf>

中澤英彦（2012）：『ロシア語検定試験について』

http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/EU_kaken/_userdata/nakazawa.pdf

ディラ国際語学アカデミー（外国語コミュニケーション能力判定テスト基準）

http://www.dila.co.jp/service/language_proficiency.html

ТРКИ 実施要項

- ・日本対外文化協会：<http://taibunkyo.jp/staticpages/index.php/exam-level>

Russian Language and Culture Institute（Санкт-Петербургский государственный университет）

<http://www.russian4foreigners.spbu.ru/>

Государственный институт русского языка им.А.С.Пушкина (プーシキン記念国立ロシア語大学)

<https://www.pushkin.institute/>

法務省：在留外国人統計

http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html

【参考】

表1 ロシア語課程開設機関数の推移（大学）*1

| | 国立 | 公立 | 私立 | 総数 | %*2 | 大学総数*3 (回答数) |
|------|----|----|-----|-----|-------|-----------------|
| 2002 | 54 | 22 | 113 | 189 | 27.8% | 679 |
| 2004 | 53 | 21 | 110 | 184 | 26.4% | 697 |
| 2006 | 50 | 19 | 100 | 169 | 23.8% | 710 |
| 2008 | 46 | 22 | 97 | 165 | 22.8% | 723 |
| 2011 | 44 | 17 | 88 | 149 | 20.3% | 735 |
| 2013 | 44 | 19 | 84 | 147 | 19.9% | 738 |
| 2014 | 44 | 19 | 82 | 145 | 19.0% | 763 |

*1 数値は文部科学省が各年に発表する報告「大学における教育内容の改革状況について」中のデータに基づいている。

*2 大学数全体（回答数）に対するロシア語課程を有する大学の割合

*3 大学院のみの機関は除いている。

表4 外国語教育の実施状況—大学数*
(2002年度, 2014年度カリキュラム)

| | 2002年 | 2014年 | 増減率 |
|--------|-------|-------|--------|
| 英語 | 677 | 737 | +8.9% |
| ドイツ語 | 577 | 498 | -13.7% |
| 中国語 | 568 | 633 | +11.4% |
| フランス語 | 543 | 505 | -7.0% |
| 韓国・朝鮮語 | 322 | 474 | +47.2% |
| スペイン語 | 240 | 230 | -4.2% |
| ロシア語 | 189 | 147 | -22.2% |

* 同上データ

(林田理恵 (2017) : 『どこへ向かうロシア語教育?——国際語としてのロシア語教育の提案——』より)

Проблемы, связанные с проведением ТРКИ:

CEFR·ТРКИ в японском контексте

ХИСИКАВА Кунитоси

1. Введение

※ Необходимость рассматривать русский язык как средство международного общения

※ Необходимость введения системы определения способности учащихся «быть посредником» между родным языком и изучаемым языком, которая требуется в родном регионе, где он изучает иностранный язык.

2. Глобализация и овладение ИЯ

- Рост глобализации и увеличение мобильности населения
- ЕС: Провозглашение идеи плюрилингвизма (plurilingualism) ...
уровень знания языка в соответствии с личными нуждами и целями
- Развитие интернета, медиа
- Необходимость общения на нескольких языках
- Разнообразие этого мира, социальное разнообразие требует владения “английским языком + α языком”
- Языковое образование: от знания ИЯ к практическому владению ИЯ

3. В сфере преподавания русского языка, русистики происходят изменения, ставятся новые задачи

• Университеты признают важность квалификационных сертификатов, разрабатываются занятия, нацеленные на сдачу тестов по определению уровня знаний по русскому языку

• Если раньше в основное внимание уделялось навыкам чтения и письма, то теперь акцент смещается в сторону навыков практического применения «говорение, слушание», и разрабатываются уроки именно устной направленности.

• Среди исследователей, например в рамках Японского общества по исследованию проблем преподавания русского языка, активно ведутся дискуссии о том, каким должно быть преподавание русского языка.

4. Требования общества, мотивация и русский язык

- Русский язык как специальность: Реорганизация на уровне ВУЗов и факультетов (тенденция сокращения)
- Русский язык как второй ИЯ: Токийский университет науки, Университет Цукуба, Университет Кинки
- Изучение русского языка на предприятиях: зависит от русско-японских отношений, международных отношений

5. Основные виды тестирования на поределение уровня знания русского языка, которые проводятся в Японии

- Тест по русскому языку как иностранному (ТРКИ)
- Тест на определение уровня владения русским языком
Росиагонорекукентейсикен (Организаторы тестирования : комитет по тестированию на определение уровня владения русским языком: Токийский институт русского языка Токио росиаго гакуин)
- Государственный экзамен на гада-переводчика (русский) (Японская национальная туристическая организация)

6. ТРКИ

- Тест на определение уровня владения русским языком для иностранцев
- Разработан как метод определения уровня владения русским языком, который необходим для получения образования в российском вузе или аспирантуре
- Применяется как способ определения уровня владения языком (Осакский университет)

7. Проблемы, связанные с проведением ТРКИ, в Японии

- + Удобен для оценки результатов изучения языка и освоенности материала
- + Учащийся получает объективную информацию о своём уровне владения языком и стоит стратегию дальнейшего обучения, ставить понятные задачи
- + Поддержка и повышение мотивации к изучению языка
- + Студент может указать наличие сертификата в резюме при устройстве на работу, в некоторых случаях это повышает его конкурентоспособность
- Практически нет университетов, которые бы ввели ТРКИ как

необходимое условие для внутренней аттестации

- Практически отсутствуют учебные пособия, построенные с учетом требований ТРКИ, которые нацелены на японских студентов
- Низкий уровень знаний о ТРКИ
- Разрыв между образованием по русскому языку в учебных заведениях и уровнями ТРКИ (содержание предмета не учитывает стандарты ТРКИ)
- Необходимость для проведения тестирования каждый раз приглашать тестировщиков из России сопряжена с большими расходами (что отражается на стоимости экзамена)

8. Есть ли необходимость овладения ИЯ на уровне носителя?

- Знание русского языка может быть востребовано не только в России
- Многоязычность и многокультурность в Японии
- Нужды родного региона (в данном случае Япония) в специалистах, владеющих ИЯ в разных сферах деятельности, необходимость отвечать на эти нужды при преподавании ИЯ

9. Дальнейшие задачи

- Интеграция стандартов CEFR в языковое образование (ИЯ и РЯ)
- Разработка учебных пособий, соответствующих требованиям CEFR, ТРКИ
- Необходимы методические разработки применения CEFR, ТРКИ, в учебном процессе и исследование влияния этого применения на учебный процесс